

### 第3回角田市上下水道事業運営審議会会議記録

日時：令和8年2月25日（水）午後1時30分～午後2時30分

場所：角田市役所401会議室

出席委員：中嶋委員、島津委員、高橋委員、鈴木（文）委員、鈴木（淑）委員、笹木委員  
以上6名

事務局：上下水道事業所長、事務次長、主幹、経営管理係長、経営管理係主事

傍聴者：なし

#### ○内容

##### 第3回審議会

#### 4 議事

事務局より次の内容について説明が行われた。

- (1) 水道事業アセットマネジメント及び経営戦略について
- (2) その他

説明後、会長より委員へ質問、意見等について諮られ、以下のとおり受け答えが行われました。

- 会長           アセットマネジメント計画を作成することが補助の要件となるのか。
- 事務局       水道事業については現在のところ要件ではない。
- 会長           更新などに費用がかかり、物価上昇などがあれば料金の改定もやむを得ないと思うが、費用を抑える為に企業会計から行政で行うという考えになるのか。
- 事務局       水道事業側で行っていることになる。アセットマネジメントについて、全てを直さずに事業を行うことに了解をいただけるかという点になる。どの程度の範囲で行うか、行政側と使用者等の意見のすり合わせがある。
- 会長           重要な路線はもちろん必要と考えるが、郡部では供給は行うが、更新ではなく修繕で対応するものと捉えている。また、更新事業計画の「角田梶賀地区」を設定した意味は。
- 委員           人口減少により、全体を網羅するというのは成り立たないのではないか。例えば、人口が少ない場所は料金を3倍にするような。居住エリアを中心に寄せる考えで、例えば、郡部で使用する場合は高い料金を許容していただくなど。政治的な話しになるが、人口と負担のバランスを考えればやむを得ない。どこかの時点ではこのようにしなければならないと考える。

会長 10年程度では問題ないが、50年先を見据えれば、中嶋委員の意見も現実的に考慮が必要である。

事務局 建前上、区域での料金設定はできない。水道本管については必要な管路でありなおす考えである。また、人口密集地を中心に更新を行う理由について、影響を受ける人数が多いためである。人口が少ないところは優先順位の下位になるという考え。

委員 市に寄附があったが、この計画をみると寄附が足しにならない規模だと感じる。料金のシミュレーションについて安く見えるが。

事務局 下水道の料金を含まないシミュレーションのため安く見える。

委員 昔、井戸水を飲んでいたが、将来は井戸水が見直されるのではないかと考えた。事業費や料金について、人口が減少すればやむを得ないと考える。早めの見直しで、将来世代に影響を与えないようにしたい。

委員 管路の耐用年数についてどのように考えるのか。また、漏水について、道路が濡れている箇所を見たことがある。

事務局 布設からの年数。

委員 管路の性能は上がっているのか。

事務局 100年程度の耐用年数となっている。電気接続や伸縮管など。

委員 人口減少により水量も減少するのか。

事務局 人口減少しているが料金収入は減少していない。市内企業の好調により水道使用量が多いため。将来的には値上げが必要と考える。また、水道水の受水量が9割を占めるため、広域水道の値上げがされると、伴ってこちらも値上げをせざる得ないと考える。

会長 今日の会議で結論を出す部分があるのか。

事務局 今回での結論は不要。郡部などの管路について何もしないわけではない。この計画で良いという合意について、何かあれば提起いただき反映する。また、パブリックコメント結果を反映して、最後の案を作成し、審議会に諮り答申となる予定。

委員 街中でこの時期に水道工事が多いが理由について。

事務局 今年度が多く、通例ではない。早期発注に努めたい。

事務局 財政シミュレーションを現在作成中である。今回の審議会の内容が基本であり、細部の調整を行い、次回は3月に審議会を行いたい。